

日本の特異性と浴室における ユニヴァーサルデザイン

JUKUKAN
UD+PROJECT

—エルゴチーム—

発表者：積水ハウス 前田雅信

1

エルゴチームの発表は、「日本の特異性と浴室におけるユニヴァーサルデザイン」です。

大層な名前をつけましたが、これは10月の国際会議にもう少しブラッシュアップして発表したいところです。

特にお風呂空間を、我々エルゴで研究しています。

「日本」「和」というものを国際会議に来られる方に、伝えたいということです。

エルゴ、人間工学以外についても若干触れています。

● 年間の活動



事例発表 日立製作所

事例研究 海外入浴の実態に関して意見交換

見学 松下電器産業 ツインビルUDブース

見学 熊本県ユニヴァーサルデザイン団地ほか

東京ガス都市生活研究所 早川所長講演

事例調査 横浜サンシティ

2

年間の活動は、意見交換や施設見学などですが、一番のトピックスは、東京ガスの早川所長に講演をいただいて、欧米の入浴の仕方と日本の入浴の仕方を調べたことです。

浴室空間でのユニヴァーサルデザインを再考する



眼鏡使用者が日本で約6000万人

まず、実物件でのUDチェックからスタート



入浴スタイルそのものが、歴史的に変化していること。

日本の入浴スタイルは独特なものであるとの認識

着目した視点です。

発端は、つくった浴室をどう使っているのかという話です。

具体的に言うと、小さい赤ちゃんができたときに洋風バスではどのように体を洗ってあげるのか。お年寄りには洋風バスを本当に使っているのかという話を聞きました。

聞いた中では、特にアメリカでは男性はシャワー浴が進んでいて年をいっても、シャワー浴だけで済んでいるそうです。

非常に大きな文化の違いがあるということです。

そういうことをベースにしてユニヴァーサルデザインを再考しました。

その前に、エルゴということなので、日本で約6000万人いらっしゃる眼鏡使用者にとって浴室は十分なものか。入浴スタイルも非常に変わってきています。

また、トイレの使い方は個人個人異なっていて、プライバシーの問題もあるので、どういうふうに使っているかがわかりにくい。お風呂も同じだということがわかりました。実際にどのようにお風呂を使っているかは、家族すらわからなかった。そのへんから認識を新たにして浴室を考えようという話です。

日本の住文化の中での浴室の歴史を振り返る。



日本の特異性にまで考察することになった。

(10月の国際会議も視野に入れて)

キーワード

和室 床座 引き違い戸 玄関 床の間

坪庭 障子 無垢材……………

歴史と理論を考えることから始める。

たまたまメンバーが私と同じように過去の歴史に強いというか、年をとっているというか、過去に戻って考えてみましょう、ということになりました。

日本の特異性を考えようといったのは私です。

キーワードは、和室、床座、引き違い戸、玄関で靴をぬぐとか、床の間、しょうじ、木材。

どちらかという「和」です。日本の住空間を考えるときの根底となっています。

● 入浴の歴史

・湯船に入る習慣はごく最近。

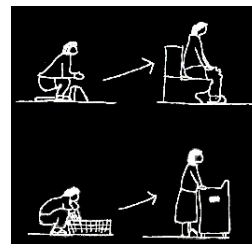
ドラマ「水道完備、ガス見込み」の時代を経て

・ユニットバスの出現 1963年(s38年)

・戸建てでの導入 工業化住宅が先鞭をつけ普及

・その後のマンションでの採用率アップ

・生活家事スタイルは床から椅子座・立位へ変遷



5

入浴の歴史についてです。

ユニットバスができたのは、東陶さんがつくった昭和38年からです。

その後採用が増えて、戸建て住宅では、工業化住宅が先鞭をつけて普及。

マンションという集合住宅では、採用率がアップされました。

コスト的にも安いということもありました。

生活スタイルは、床座から椅子座へ。トイレも和式便器から座る形式に変わりました。洗濯も、たらいから立つようになりました。

浴室もこれらが言えるかなと思ったのです。お風呂の中で体を洗うのは、昔は床で洗っていた。いまは小さい椅子を置いて。でも、どんどん高くなってきた。これから風呂は立って入るのかとも思います。

新空間の中で、荒川修作（あらかわ しゅうさく）さんの作品の写真があります。私も見ましたが、そういうバスタブがない、シャワーブースしかない家を、1億円で売っている。時代はそのように変化しています。

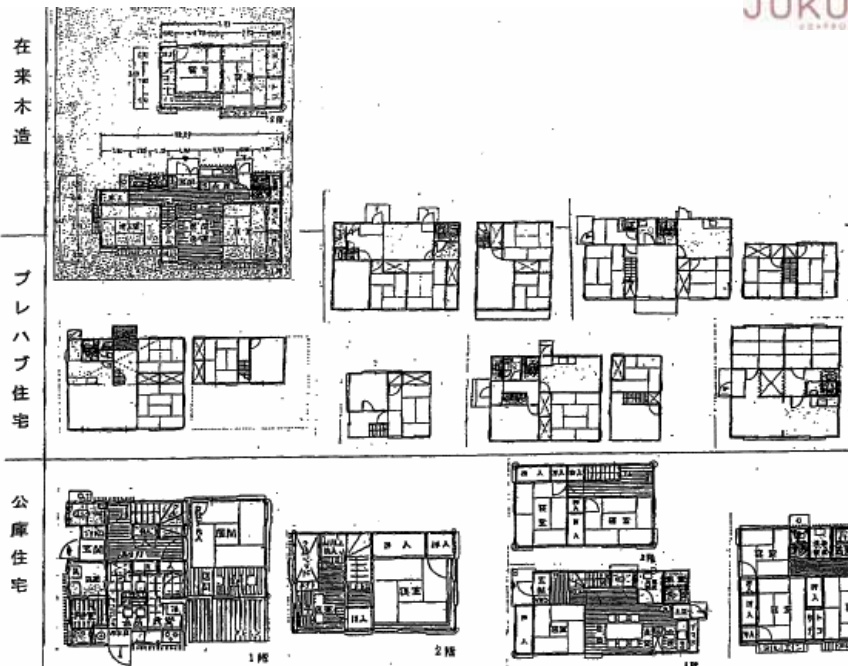
この前東陶さんには、「また座り出しますよ」と言われました。

UDの視点で見るとそういうのも選べたらいいな、と心が悩んでいるところです。

● 年代別プラン特性 (昭和40年代)



JUKUKAN
RESEARCH



6

昭和40年代のプラン特性です。

今の浴室の原型となる平面図を示しました。当時なので浴室の広さは、1216 (1200mm×1600mm) 、1218 (1200mm×1800mm) という小さなサイズですが、「洗い場」があり、ヨーロッパ、アメリカから見ると特異だそうです。

● 日本の独自性

- ・湯船に入るのを好む 若者も同じ傾向
- ・半身浴が認知され出した
- ・ユニットバスの普及率が高い
基礎的なUDはできている！
- ・坪庭がある場合がある
- ・シャワー浴の良さはこれから普及か？



東京ガス 都市生活研究所 日米お風呂調査より

8

日本の独自性について。

坪庭と書きましたが、自然とのふれあいは日本的なところですが。半身浴が認知されてきて、今のユニットバスでも半身浴ができるタイプも出てきています。それが認知されています。

シャワー浴が結構、普及されると思います。

また、日本独特の問題として、部屋付きでお風呂がないので、結構寒いところでお風呂に入るということで、浴室の中での溺死など、事故死率が高いのです。基礎的なことですので解決していきたいと考えます。

- ➡ • ユニバーサルデザインの導入
- 長寿社会対応住宅設計指針
- 品確法の整備 性能表示

広さサイズ

入り口サイズ

段差

温度

手すり



7

浴室空間のユニバーサルデザイン化。

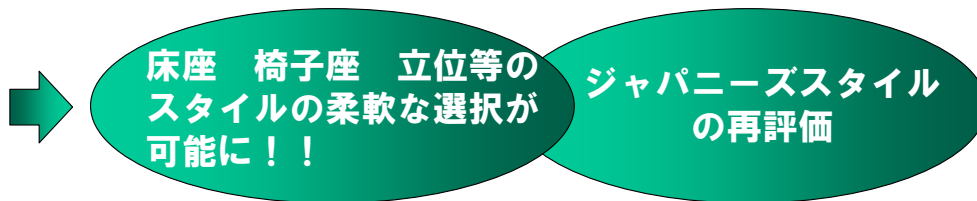
この写真は、現在積水ハウスで販売しているバスユニットです。

既にユニバーサルデザインはある程度導入されています。

手すりの位置、入口のサイズ、段差、床に足をふれたときひやっとしないとか、結構、類似性が出てきています。

● 今後の展望

- ・半身浴の普及が本格化
- ・在来工法の見直し →癒し・リラックスを求めて
→UD配慮不足への対応が必要
- ・パーソナルユースの風呂の普及 ???
→2BATHの時代 or 1BATH+シャワー
- ・機能・衛生面でシャワー浴の普及



9

今後の展望についてですが、問題・課題が3点出てきています。

ひとつは、在来工法についてです。

ユニットバスに飽きたらずに、在来工法でつくる。個別解になると、デザイナーのミスが多発しています。ユニヴァーサルデザイン的に見て、配慮不足が出てきています。今後の対策が大事です。

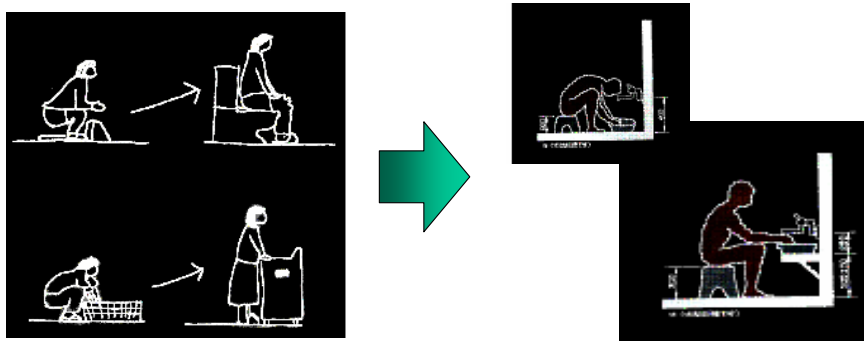
2点目は、パーソナルユースのお風呂場が出てくるのではないかと。

今はファミリーユースで家の中に1つですが、お金持ちになると、2つ、たとえば、1つはバスシャワーとか。

将来的には床座、椅子座、立位などがこれらが柔軟に選択できるようになると思います。

3点目は、ジャパニーズスタイルの再評価。日本的な浴室スタイルを持っているのが分かったので、これをきちんと整理をして、アメリカなどとの比較をすると、結構、日本発のユニヴァーサルデザインのお風呂版ができるのではないかと考えています。

- ・半身浴の普及が本格化
 - ・機能・衛生面でシャワー浴の普及
- 椅子座のシャワー浴
立位のシャワー浴



10

半身浴、シャワー浴の普及についてです。

既に、床から少し立ち上がり、腰をかがめてやっていたのが、ちょっと高くなりました。

これがどんどん高くなり、シャワー浴になると立位になる。もう少しするとシャワー浴に椅子が加わり、また、下がってくる、といういろんなケースが出てきたのが1つの展望です。

ジャパニーズスタイル（入浴）

先進事例から見るUD-6つの視点から比較

やさしい、楽、安全

先進性、ITによる利便性



多様性、選択性

環境配慮、サステナブル



快適、美しい、楽しい、うれしい

社会性、コミュニティー

11

ジャパニーズスタイルとして、下記にまとめてみました。

浴室のデザインブックのケースの中に、日本的な入り方がのっていました。それらを海外からも評価されているので、「良さ」を伝えればよいと思いました。

「やさしい・楽・安全」についてはレベルが高いと思いますが、「先進性・ITの利便性」に関するものは、テレビやインターネットの中などで、利便性の追求は、日本が得意だと思えます。

「環境配慮やサステナブル」については、同じお風呂に何回も入ることができます。これは今の時代から見るとよいことかなと思えます。

下の写真は、1つの浴槽に親子では入っているのですが、これも考えてみたら日本独特です。欧米では子どもを入れて、お母さんかお父さんは、横で介助をするからです。肌と肌の触れあいということでは、これも1つのテーマかなと思えます。

「快適・うつくしい・うれしい」では、木材の木を使ったお風呂も出て、近年では漆のお風呂も出てきています。日本的な素材を生かす意味で、いろんな材料が出てくると思えます。

ジャパニーズ・スタイルの再評価



入浴におけるユニヴァーサルデザインの再構築

12

最終的には、「入浴におけるユニヴァーサルデザインの再構築」という大きなテーマを挙げました。

東陶さんとINAX（イナックス）さんが手を結ばないとできないので、これも、絵としては描けると思っております。

そういう中で、冒頭ヒントになったのが内田繁（うちだ しげる）さんの書いた「茶室と日本インテリア」という本で、「日本人は家に入るときに必ず靴を脱ぐ。あなたは何故靴を脱ぐのですか？」と副題がついていました。考えてみると、私どもの食文化をよしとする建築家、啓蒙活動にしても、日本人の感性が受け入れられなかった。

日本に入った段階で和室が入ってきたり、靴を脱ぐ為に玄関に段差が出てきたり、掃き出し窓が出てきたり、日本流に直しているところがあります。

これらを良さとして、ぜひ、新しい入浴におけるユニバーサルデザインの再構築したいと思います。

**ご静聴、
ありがとうございました。**

ご静聴、ありがとうございました。